

キャラクター名
泉鏡花

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー キュマイラ		ワークス	不良高校生	カヴァー	不良高校生
	オプション		年齢	15	性別	女
覚醒	忘却	衝動	憎悪	初期侵食率	35	%
出自	両親の不在	経験	喪失	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	5	1	0			6	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
究極のゼロ	P	N		
『色を持たない無色透明なカラーギャング』	P 執着	N 敵愾心		
紫苑	P 感服	N 猜疑心		
水上 隼	P 友情	N 不安		
白峯 咲姫	P 信頼	N 悔悟		
忍野メメ	P 信頼	N 猜疑心		
辻村葉月	P 庇護	N 劣等感		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:サラマンダー	3	3	Xジャー	-	-	-	-	
効果: 組み合わせた判定のクリ値-[LV]								
フレイムタン	1	2	Xジャー	視界	-	-	-	
効果: 白兵攻撃の射程を視界に変更。攻撃力-[5-Lv (最大0)]								
氷炎の剣	3	3	マイナー	至近	自身	-	-	
効果: 種別:白兵、技能:<白兵>、命中:-2、攻撃力:+[Lv+6]、ガード値:6、射程:至近								
地獄の氷炎	5	2	マイナー	至近	自身	-	-	
効果: 《氷炎の剣》と組み合わせる。 攻撃力もしくはガードを+[Lv×3]								
獣の魂	1	5	オート	至近	自身	自動成功	100%	
効果: 【肉体】を使用した技能の判定を行う直前に使用。その判定のダイスを+5。1シーンにLv回使える								
灼熱の砦	3		Xジャー					
効果: このエフェクトを組み合わせた攻撃の攻撃力を+[Lv×3]。								
凍結保存	1	-	Xジャー	至近	単体	自動成功	-	
効果:								
氷の理	1	-	Xジャー	至近		自動成功	-	
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

泉鏡花は俗にいう不良高校生であった。 異能が蔓延る池袋では、カラーギャングの抗争が続いていた。彼女もまた、例外ではなく、サラマンダーとキュマイラの異能を持っていた。サラマンダーの方の異能が強くており、氷を扱うのはうまかった。異能の影響か、カモ強かった。そんな中で、父と母と。比較的彼らがいらないような場所で、生活をし、学校へ通っていた。が、学校はたまにサボっていた。別に大きな理由なんてない。ただ、彼女は何に対しても興味がなかった。思えばその頃から、彼女の心は凍りかけていたのかも知れない。が。しかし、日常は突然壊れる。父と母が、交通事故によって亡くなった。彼女は初めて、人生で深い悲しみと絶望感、喪失感を得た。

途方に暮れ、道端で座り込んでいると。ローブを深く被ったやつが、彼女に話しかける。「××××××」

そこから先のことは覚えていない。気が付いたら、廃ホテルの一室で横たわっていた。そして、彼女の異能は大きく強化されていた。故に彼女は知りたいのである。自分の身体に何が起ったのか。

それが彼女が初めて、興味を持つことができたものだ。

冷静な脳筋。ある程度の物事を自分の頭で考えて行動はできる。が、解決方法が脳筋である。また、キュマイラの影響なのか力が強い。成人男性をお姫様抱っこして軽々と走れるくらいには力が強い。あと飯をよく食べる。寒い食べる。もしゃあ。

一人称は私。口調は基本的にタメ語である。